© 海事プレス社2024 禁無断転載

Daily Cargo

台北5割に、成田3割も羽田5割

■東アジア空港の貨物トランジット量

東アジアの空港は貨物戦略でトランジット貨物を取り込む方針に取り組んでいる。取扱量に占めるトランジット貨物の割合では台北・桃園空港が50%を超えており、ソウル・仁川空港は約40%で推移している。約30%の成田空港を巡っては、将来に向けた「新しい成田空港」構想で東アジアの貨物ハブを目指してトランジット貨物を取り込んでいく方針。一方、フルサービスキャリアの国際線旅客便の羽田シフトや新型コロナウイルス禍収束に伴う復便、増便で羽田は5割を超えており、成田と羽田の特徴が浮き彫りになりつつある。

国際空港評議会（ACI）が2023年7月に発表した22年の世界の空港貨物量ランキング（確報）では、東アジアの空港のうち香港が1位、上海・浦東が4位、仁川が6位、台北が7位、成田が10位。

貨物取扱量に占めるトランジット貨物の割合をみると、仁川は約40%で推移している（表①参照）。トランジット貨物は23年後半から急回復が進み、通年で前年比1.3%増の113万トンだった。国際貨物量に占める割合は前年から3.3ポイント上昇して41.3%となり、13年の42.9%以来の最高水準を記録した。

その中で、韓国の国土交通部は3月7日、航空、海運、物流の新たな国家政策を発表。航空ではオープンスカイを推進し、締結国を現在の50カ国・地域から2030年までに中国、欧州連合（EU）、インドネシアなど70カ国地域に拡大する方針を示した。日本は36カ国・地域と締結している。仁川はすでに供用済みの第4滑走路と旅客第2ターミナル拡張工事を軸とした発展計画の第4段階プロジェクトが今年10月に完了予定。年間旅客数1億300万人、貨物取扱能力630万トンとし、接続能力を高めて、近隣で競合する香港、桃園から需要を取り込む方針を示している。

桃園はトランジット貨物の割合が高く50%前後で推移している（表②参照）。桃園国際空港会社は40年を目標とした同空港開発計画を打ち出し、20年末に台湾・行政院が正式に承認を受けている。東アジアのハブ空港と位置付け、アジア太平洋地域と北米を結ぶ計画で、30年までに第3滑走路の供用開始を目指している。航空貨物輸送ではポストコロナでのグローバル・サプライチェーン再構築と回復力の点で新たなチャンスと指摘。40年の貨物取扱量は三つのシナリオで予測しており、楽観的は402万トン、保守的は240万トン、その中間は292万トンとしている。

成田のトランジット貨物（仮陸揚げ貨物）の割合は30%程度で推移してきたが、23年は35.2%と伸びた。積み込み量、取り下ろし量ともに大幅に減少する中、トランジット貨物量の減少幅が1.4%減の65万8195トンに留まったことで相対的に割合が高まった。成田では2029年3月末に第3滑走路供用が予定されており、30年以降の姿を示す「新しい成田空港」構想について検討が進められてきた。成田国際空港会社は昨年3月、中間とりまとめとして東アジアの貨物ハブ空港を目指す方針を示し、検討委員会から賛同を得た。空港東側に新貨物地区を整備し、既存の貨物地区を統合するとともに、制度面を含めトランジット貨物を取り込むオペレーション実現を目指す方向。一方、羽田は貨物便が運航しておらず、旅客便や成田などの転送貨物を中心に取り扱っており、コロナ禍収束で復便が進んだことで、23年はトランジット貨物が倍増の29万7721トンとなり、トランジットの割合は10.8ポイント上昇して52.8%となった。

表① 仁川空港貨物取扱量推移（単位：トン、%）

	積み込み量	取り下ろし量	合計	トランジット比率
2020年	1,444,690	1,377,680	2,822,370	40.8
トランジット量	571,829	578,997	1,150,826	
2021年	1,660,368	1,668,925	3,329,292	38.5
トランジット量	636,529	646,690	1,283,219	
2022年	1,464,827	1,481,028	2,945,855	38.0
トランジット量	559,231	559,916	1,119,147	
2023年	1,361,753	1,382,383	2,744,136	41.3
トランジット量	568,302	565,030	1,133,332	

※仁川国際空港公社資料を基に本紙作成（合計値の一部は一致しない）

表② 桃園空港貨物取扱量推移（単位：トン、%）

	積み込み量	取り下ろし量	トランジット量	合計（郵便含む）	トランジット比率
2020年	572,319	573,552	1,177,540	2,342,714	50.3
2021年	740,979	681,165	1,371,440	2,812,065	48.8
2022年	633,193	644,240	1,244,970	2,538,768	48.2
2023年	498,543	532,824	1,068,633	2,112,988	50.6

※桃園国際空港会社資料を基に本紙作成

表③ 成田空港貨物取扱量推移（単位：トン、%）

	積み込み量	取り下ろし量	合計	トランジット比率
2020年	869,406	1,089,099	1,958,505	30.8
トランジット量	293,242	310,170	603,412	
2021年	1,222,229	1,369,026	2,591,255	28.0
トランジット量	349,206	377,410	726,616	
2022年	1,099,108	1,257,011	2,356,119	28.3
トランジット量	323,678	343,261	666,939	
2023年	848,426	1,022,433	1,870,859	35.2
トランジット量	308,399	349,796	658,195	

※東京税関資料を基に本紙作成

表④ 羽田空港貨物取扱量推移（単位：トン、%）

	積み込み量	取り下ろし量	合計	トランジット比率
2020年	149,350	166,290	315,640	44.0
トランジット量	76,926	61,888	138,814	
2021年	215,843	203,549	419,392	42.7
トランジット量	100,383	78,607	178,990	
2022年	175,743	170,321	346,064	42.0
トランジット量	79,118	66,392	145,510	
2023年	296,792	266,827	563,619	52.8
トランジット量	168,996	128,725	297,721	

※東京税関資料を基に本紙作成